

令和元年度 府立 東宇治 高等学校 学校経営計画（実施段階）
（スクールマネジメントプラン）

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>知・徳・体の調和のとれた生徒を育成し、府民の信頼に応える学校づくりを推進する。</p> <p>(1) 一人ひとりを大切に、個性と能力を最大限伸ばし、学力の向上を図るとともに希望進路の達成を目指す。</p> <p>(2) 規範意識や人を思いやり尊重するなど、豊かな人間性をはぐくむ。</p> <p>(3) 社会の変化に対応する力と、よりよい社会の構築に貢献できる力をはぐくむ。</p> <p>(4) 保護者・地域との連携を深め、安心・安全な選ばれる学校づくりを推進する。</p>	<p>(1) 大半の生徒が規律ある学校生活を送ることができたが、個に応じた生徒への指導方法をさらに研修していく必要がある。</p> <p>(2) 授業改善に向けては組織的な取組を行ったが、成果は個の努力に拠るところが大きかった。成果を全体のものとするため、授業改善の意識を共有する必要がある。</p> <p>(3) 進路指導については、入試変革期の情勢に対応して指導を行った、引き続き、諸情勢の変動に柔軟に対応しつつも、よりキャリア意識に基づいた進路選択を目指す。</p> <p>(4) 学校説明会、ホームページ、中学校訪問等を通じて、本校の魅力を組織的かつ積極的に発信した。さらなる魅力発信ができる広報活動を模索する。</p> <p>(5) 研修旅行、国際交流、異文化理解学習、伝統文化学習等を通じて、国際感覚を身につける学習を推進し、グローバルネットワーク校として一定の成果をあげることができた。これらを核としつつ、一層の特色化を図っていく。</p>	<p>(1) 人としての基本を身に付け、高い人権意識と社会性をそなえた人を育成することを意識し、日々の教育実践に取り組む。</p> <p>(2) 「知識・技能の習得」を礎に、「自ら学ぼうとする力」や「知識を活用して問題を発見・解決する力」を育成するため、不断の授業改善を行う。</p> <p>(3) 社会への貢献、社会とのかかわりを意識づけるキャリア教育を進めるとともに、高大接続改革など諸情勢の変動に柔軟に対応して、一人ひとりに丁寧な進路指導を行う。</p> <p>(4) 地元地域や外部教育機関などとの連携を深め、グローバル社会・地域社会で活躍するための素養を醸成する。</p> <p>(5) 学びの基盤となり、人生を豊かにする読書への積極的な姿勢を醸成する。</p> <p>(6) 広く本校に対する理解と信頼を得るため、本校の魅力や特色についての効果的な情報発信を行う。</p> <p>(7) 新学習指導要領に対応した教育計画策定を進める。</p>

重点目標

＜分掌・領域＞

A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:ほとんど達成できなかった

領域	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	総合評価	成果と課題
組織・運営	・適正なサービス処理と勤務時間の縮減。授業改善に向けた「働き方改革」の模索	・教職員に適正なサービス処理を周知徹底する。(週休日の振替) ・教職員の総勤務時間の縮減と短期経営目標の達成に向け、「働き方改革」を進める。	B	・出勤打刻システムが概ね定着したと言える。勤務時間に対する意識が年々高くなっていると思われる。超過勤務が続く教職員に対しては個々状況を把握し、効率よく働けるように環境の整備に努めたが、まだまだ余力余地はある。勤務時間の側面だけでなく、職務遂行の在り方についても、精査していく必要がある。
教務部	生徒が、自ら主体的に学び知識を積極的に活用する力を育成するために、授業改善を進めていく。	・授業アンケートの集約方法や回数を変更することで、授業改善に資する。また、公開授業を教科を中心にする事で指導力の向上を図る。 ・新学習指導要領に準じた教育課程の作成を進める。	B	・授業アンケートについては、各教科担当者が実施することですぐに生徒の反応や様子がわかるようになった。また、2回実施することで、前回との比較分析ができるようになった。課題としては、各担当者の解決に向けた取り組みが教科で十分に共有できていない。 ・新学習指導要領に向けて、令和2年度からの新しい教育課程を編成した。引き続き、令和4年度の教育課程を編成中である。
総務企画部	・異文化交流や他校との交流を通して生徒のコミュニケーション能力の育成をはかる。 ・広報活動をとおして、本校の魅力を中学生を始め地域の方々に知ってもらう。	・外部講師の招聘や国際的な学校交流による異文化理解を図る。 ・グローバルネットワーク京都への取り組みや他校との交流によりコミュニケーション力を高め社会のリーダーの育成を図る。 ・学校説明会をとおして、保護者・中学生に魅力を理解してもらえる内容の精選、検討をする。	B	5月に台湾より華江高級中学校が来校され、文理探究特進コースや生徒会執行部がそれぞれの文化を交流し、有意義な時間を過ごすことができた。また、アカデミックアクション・英語探究セミナー・文理探究セミナーでは外部講師を招聘し異文化に触れる機会ができた。グローバルネットワーク京都事業については、毎水曜に活動を行い、リーダーの育成・グローバルな視野を広げる活動が十分に行われ、交流会では論文の部で佳作・プレゼンテーションの部では最優秀賞を受賞した。広報活動についても、年5回の中学校訪問・学校説明会等を行い、多くの中学生が参加したが、昨年度よりは若干少なかった。PTA活動では、毎月本部役員会を開催し、円滑な行事運営ができた。

領域	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	総合評価	成果と課題
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識を育て、安心して学べる環境をつくる ・種々の活動に自発的に参加し、最後までやりきる力を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒とのコミュニケーションを密に図り相互理解に努めた上で、規則・マナー・モラルを守らせるように指導していく。 ・学校行事・生徒会活動・部活動などを通じて、充実した学校生活を送れる環境作りに努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の小さなことから指導することによって、落ち着いた環境を作ることができた。しかし預かり指導の統一や生徒の規範意識の向上をより図る必要がある。 ・学校行事・生徒会活動など種々の活動に生徒が積極的に参加できていた。ただし部活動と学校生活を一体となった指導には課題が残った。
進路指導部	生徒が主体的な進路決定をするために組織的、系統的な進路学習を行う。	主体的な進路決定のために系統的な進路学習を企画運営する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <成果> ・人権学習、人権研修、進路学習については遅滞なく実施することができた。 ・新入試制度について研修で情報共有を行うことができた。
	生徒、教職員のいずれもが高い人権意識を持つための啓発活動を行う。	生徒・教職員が人権意識を高められるように人権啓発活動の一環として人権教育及び研修などの企画運営を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <課題> ・人権学習で使用している教材に一部時代にそぐわないものがあり、改善の余地がある。 ・生徒の希望進路が十分達成できたとは言いがたい。 ・学校全体で生徒の学力を育て、主体的な進路観を育成することについての議論を深める必要がある。
保健部	生徒の心身の健康を守り、安心・安全な学校づくりを推進する。	担任との連携を図り、健康上配慮の必要な生徒や不登校傾向など、様々な課題を持つ生徒に対する相談活動を充実させるとともに緊急性・必要性を見極め、カウンセリングを有効活用する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者(管理職、スクールカウンセラー、養護教諭、担任)で連携を図り、課題を抱える生徒や保護者、及び支援が必要な生徒について相談活動を実施した。次年度も引き続き関係者で情報共有に努め、対応策を講じるとともに、必要に応じて外部機関(地域支援センターうじ等)との連携も引き続き図っていく必要がある。
図書部	読書活動を通して生徒の情操を豊かにするとともに、広汎な知見や幅広い思考力を持った生徒を育てる。	各教科と連携し、図書館の利用および図書の貸出を促進する。年間貸出冊数0冊の生徒の割合を全体の30%未満とし、1人あたりの年間貸出冊数8冊以上を維持し、図書委員会等の活動を通して生徒に対する読書の啓蒙に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科やグローバルプロジェクト等で図書館の利用が行われた。また、年間貸出冊数が0の生徒は209人で全体の25.3%であった。また1人当たりの平均貸出冊数は8.8冊であった。カウンター業務や図書館イベントなどの図書委員会活動を行った。 ・次年度以降もより積極的な図書館利用を促進するために、読書の楽しさや図書館での本との出会いを伝えていきたい。
第1学年部	社会的自立に向けた基礎的習慣の確立	学習及び諸活動において、基礎的な習慣を確立させる指導を行う。特に、挨拶の励行、朝学習の定着、東宇治手帳の活用(活動記録)に重点的に取り組む。	B	8時25分登校と朝学へ参加は、年間を通じてほぼ全員できており、基本的な生活習慣の定着は一定確立できた。挨拶の奨励は、課題として残る。東宇治手帳は、SHRやHR活動において積極的な活用を行えた。
	良好な人間関係の構築と集団づくり	集団の一員としての意識を育て、他者の立場を考慮して協力する態度を養うため、学校行事や学年活動、クラス活動を積極的に活用して集団づくりを行う。		学校行事や日常のホームルーム活動について、生徒たちは協力して取り組みを進めることができた。後半期にスマホの校内使用で指導を受ける事案が増加するなど、集団生活での生活規律の遵守を継続指導する必要がある。次年度も協同できる集団の育成を行いたい。
第2学年部	将来を切り拓くための、基礎的な学力を身につけさせる。	日常の授業への積極的な参加を促し、課題にきちんと取り組ませる。その上で、受け身ではなく自ら学ぶ姿勢を養うことを目指す。	C	授業に取り組む姿勢に問題のある生徒に対して十分な指導ができたとは言えない。このまま学習軽視の雰囲気が続くれば、来年度の希望進路実現は困難であると考えられる。
第3学年部	将来のビジョンを明確にして最後まで努力させ、希望進路の実現につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・人や社会との関わりを意識させて、ホームルーム活動や将来の進路についての指導を行う。 ・主体的に学習に取り組めるように、学習室や進学講習を有効に活用するよう促す。 ・学習する雰囲気を維持したホームルーム経営に努める。 	B	来年度から入試制度が変わることを念頭に置き、情報収集などの準備を早くから進めることができた。今年の傾向を進路指導部と連携して適切に伝えることにより、早めに行動させることができたので、希望進路の実現につながった。しかし、推薦入試が終わった後、一般入試に向けて最後まで粘り強く取り組む雰囲気作りが課題である。
事務部	学校環境の整備及び希望進路実現の支援	学びの環境の整備、施設設備の老朽化の改修を計画的に進める。進路実現のため、就学支援の一層の周知徹底をはかる。	B	災害復旧工事、1棟壁面の漏水修繕工事、また、2棟廊下の電灯取替、床の張り替え工事、トイレ改修など、施設の改修が大きく進んだ。一方、就学支援では、高校教育課の処理の遅れにより、個別対応が必要なケースがあった。

教科	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
国語	「大学入学共通テスト」や改訂された学習指導要領に対応するための、探究的内容を教科の中に取り入れた授業を行う。	・グループ討論など対話的学習を積極的に行う。 ・「考える力」の基礎となる漢字、語彙の学習を丁寧に行う。 ・週末課題など自主学習を促す指導をさらに行う。	B	授業の改善を積極的に行うことができた。また、週末課題や漢字テスト・古文単語テストについて、定期的に取り組みことができた。「文章」が書けない生徒が多いので、具体的な方策を考えていきたい。
地歴公民	・生徒の主体的な学習につながるように、生徒の興味・関心・意欲を高め、自学自習の力を身につけさせる。 ・希望進路を実現させるための学力を育む。	・視聴覚教材の活用、JICAエッセイコンテストへの参加、アクティブラーニングの研究 ・進学講習の実施、大学入学共通テスト対策の研究	B	【成果】 ・JICAエッセイコンテストにほぼ全員が参加し、特別学校賞を受賞した。 ・進学講習を実施し、幅広い志望校への受験対策を行った。 【課題】 ・視聴覚教材の活用やアクティブラーニングの実践については、次年度以降も研究を行っていきたい。
数学	数学的な思考を身につける。	公式をただ覚えるのではなく成り立ちやほかの公式との関係を知ることによって数学の構造を知り、幅広い思考能力を身につける。また、論理的な考え方や本質を把握する判断力を養う。	B	授業は落ち着いた雰囲気で開催されており、単元テストや補充の実施などきめ細かく丁寧に指導することができている。各学年ごとの進学講習も効果的に実施されている。しかし、生徒の論理的な思考力を十分高めることができなかった点が課題であり、来年度以降も授業改善を続けていかなくてはならない。
理科	自然科学に興味・関心を持ち、科学的な自然観や考え方を身につけた生徒を育てる。	体験的活動を積極的に取り入れる。また、学んだ知識を活用する機会を設け、基礎・基本の学力のさらなる定着と発展的な学力の養成に努める。	B	実験や大学の出前授業等を活用し、体験的な活動の充実を図った。ただし、単位数が少ない科目での実施には至っていない。3年生では課題発表の機会を設けた科目もあり、次年度もその流れを継続する。発展的な学力の養成に関しては、結果が伴っていないことを冷静に受け止め、次年度以降の課題としたい。
芸術	芸術の幅広い諸活動をとおり、芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばす。	表現力、鑑賞力を伸ばすために、基礎基本となる技術の習得を重点的に行うとともに、芸術科相互の実践研究の交流を充実させる。	B	・一定の技術水準への到達をめざす指導を行う一方で、生徒一人一人の進捗状況を把握し、個々の感性や能力に応じ年間を通して適切な指導、助言を行った。今後も鑑賞指導、とりわけ生徒同士相互の作品・発表に対する相互評価力の向上に向けた授業改善が必要である。
保健体育	・「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成 ・健康の保持増進に必要な行動を自ら実践できる態度を養う	・運動の目的や必要とする技能・知識を理解させ、より深く考えながら運動を実践する態度を育てる。 ・スポーツを楽しむ態度を育て、「体育嫌い」や「運動嫌い」を減らす。	B	・仲間を大切に、安全に留意しながら体を動かす楽しさや心地よさを味わう態度を養えた。 ・健康課題の解決やスポーツライフの充実に向けたテーマについて、生徒相互が積極的に発見・発信しあう授業が展開できた。 ・種目に好き嫌いがあっても主体的に取り組み、その種目の魅力を理解させたい。 ・学習で得た情報や知識を日常生活の中で活用させたい。
家庭	自立して家庭生活を営むための基礎的・基本的な知識と技術を身につけさせる。	実験・実習など実践的な学習を通じて、アクティブラーニングの手法を活かし、生徒の興味・関心を高め、理解を深められるようにする。	B	・暑い日が多く、冷房設備のない実習室でアクティブラーニングの手法を活かしての授業に苦慮した。気候がよくなってからは、生徒は落ち着いた環境で授業に積極的に参加するようになった。 ・消費者教育の分野で外部講師を招聘して授業を展開することができた。
英語	英語によるコミュニケーション能力を強化するための授業改善の取組を行う。	全学年の4技能のテストを以下のとおり実施する。 ・リーディングテスト(初見)は年間4回以上 ・リスニングテスト、スピーキングテスト、ライティングテストは年間2回以上	B	パフォーマンス課題の実施と生徒に英語の発話を促す授業の実践については、一定の成果があったと思われる一方、一部の授業でまだまだコミュニカティブになっていない現状があるのが事実である。また、今後実施される共通テストに向けての指導のあり方を模索していく必要もあろう。
情報	高度情報化社会の中にある課題を認識し、情報機器を活用した解決の方法とそのモラルについて考えさせる。	新しい情報活用手段のあり方について、パソコンを利用した情報活用だけでなく、タブレット等その他の機器利用について他教科とも連携をはかり、さまざまなICT機器を活用した生徒と教員のスキル向上も目指す。	B	情報機器を使いこなすスキルとモラルの向上の授業に力を注いだ。近年スマホは使いこなせる一方、PCを使えない生徒が急増し、あらためてPCスキル向上とプレゼン力向上のために丁寧な実習に取り組んだ。一方、急増するスマホをめぐるトラブルについては、実例を挙げながら意識向上と務めた。新課程の小中学校でのプログラミング教育の始まりを見据えて、はざまにあたる現在の生徒たちにも世代間の差が出ないように取り組みをした。他教科との連携については引き続き本校でのスマートスクールの導入をにらみ連携をはかっている。

<p>学校関係者評価委員会による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりを大切に育てている。来年度も中学生や保護者が安心してめざせる学校づくりに尽力してほしい。 ・国際理解教育や伝統文化教育など学校の特色を明確に打ち出している。新学習指導要領に向けて、着手し始めている。これからの時代に要求される新しい学びをしっかりと捉え、思考力・判断力・表現力をより一層身につけさせるように務めてほしい。 ・進路指導の充実、進路希望の実現をめざし、社会に貢献できる人材を育ててほしい。
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々授業改善を心がけ、学力の充実・向上をめざすとともに、部活動等課外活動を通じて生徒一人一人の可能性を最大限伸ばす。 ・規範意識を向上させ、規律ある集団を維持し、全教職員が共通理解のもと一致した指導を行う。 ・国際理解教育や伝統文化教育への関心を高めるなど特色化を推進するとともに、地域、小中学校との連携を深め、地元に信頼され、中学生の憧れる学校づくりをする。